

子では中学1年頃、男子では中学3年頃から r の値の低下するものが多い。なお、高い相関を示す組合せ（例えば後胴高：身長、大腿最大囲：腰囲、その他）ではこのような変化は少ない。

C-41 スラックス製作に関連のある身体部位間の相関について

千葉大教育 ○松山 容子
昭和学院短大 桃 チヨ
県立印旛高 紫藤由紀子

1. スラックス製作に関連のある身体部位間の相関係数(r)を算出し、その大きさ、性差、加齢に伴う変化について観察した。

2. 資料は昭和41年・42年に千葉市・市川市で計測した男女小学生・中学生・高校生・大学生・22~29歳の成人合計1537人の身体計測値・計算値である。取り上げた相関は後胴高・股の高さ・膝高・股上前後長・股上・胴囲・腰囲・大腿最大囲の8部位の身長・体重・腰囲の各々に対するもので計23組合せである。

3. 8部位の相関の傾向をみると、後胴高・股の高さ・膝高は対身長 r が大きく、対体重・対腰囲の r が中程度以下である。股上前後長・胴囲・腰囲・大腿最大囲は対身長 r は中程度以下であるが対体重 r ・対腰囲 r が大きく、この場合、対体重・対胸囲のいずれがより大きいか結論できない。股上は身長・体重・腰囲のいずれに対しても中程度以下の相関を示す。

性差では股上の r は対身長・対体重・対腰囲の3値とも、各年齢を通じて女子が男子を上まわる。その他若干の組合せである年齢層において性差がみられる。

r の中には加齢に伴う変化のみられるものがあり、女